

仁

川

川仁

5-1 3 2 6

0056

和

鎮南浦

仲吉丸朝日丸遭難願末

前記帆船二艘、本月二十日清國安東縣對岸、
 國義州郡北下洞鴨綠江に於て遭難シタル趣ヲ以テ
 仲吉丸船長谷口多吉外三名去ル二十八日午前九時
 當館へ出頭セシメ付其願末取調候處別紙調書
 通リ、有之右両船ハ是迄數回材木買入ノ為メ該地
 へ往來シ毎回何タル變事モ無之カリシト本月十七日仁
 川港ヲ出帆シ同廿一日午後四時義州ヲ距ル九三里北下
 洞鴨綠江に投錨スルヤ突然此遭難ヲ見ル趣キ候而シテ
 兩船へ来リテ清兵五百名位ノ外安東縣鴨綠江岸
 へ多數ノ清兵比集シ居ルト云フ蓋シ此際外國兵員
 等清國內へ進入スルヲ防衛スルノ趣意ト出ル如ク即鴨
 綠江へ出入スル外國船舶ヲ取押へ其乘組員ノ兵員ナルヤ
 否ヲ調査シ其機に乗テ序ナカラ貨物ヲ掠奪スルモノ
 如ク認メ候清兵掠奪ノ件ニ関シテ平壤分館附有
 馬警部出張先ヨリ同館へ電報ノ次等モ有之旁
 該地附近へ往來ハ當今危險ト被存候猶委細ハ
 別紙調書ニテ御承知相成度此段及上申候敬
 具

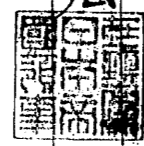
在朝鮮國鎮南浦

日本領事館

明治三十三年七月三十一日

鎮南浦

日本領事館事務代理 桐野 弘



外務大臣子爵青木周藏 殿

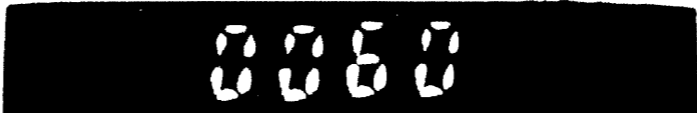
政務局
 取調課
 長岡

以テ残オテテ祐ッ榜ノ内ヲ模索シ至テ諸貨
 物、福吳、炊戸、是吳、糧、辰、品、五、五、迄、標、在、
 シ、而、ヲ、残、オ、於、人、内、（御、諸、）、右、因、資、三、即、山、根、
 役、松、降、人、三、右、ッ、諸、シ、残、オ、七、右、ッ、一、右、シ、
 三、七、三、獲、之、ヲ、獲、捕、シ、五、六、丁、右、ノ、江、中、ヲ、三、四、
 回、上、下、シ、凡、ッ、一、時、廿、斗、右、残、オ、ヲ、捕、獲、シ、先、
 ヲ、池、ニ、ホ、ス、モ、ノ、必、シ、ス、マ、リ、其、東、右、神、吳、不、
 ハ、連、レ、行、キ、福、中、一、段、俄、キ、知、シ、残、オ、ヲ、押、
 籠、メ、右、右、兵、卒、一、右、ッ、校、望、シ、陸、上、リ、
 五、調、アル、夫、古、代、ヲ、同、傳、シ、来、リ、福、中、ノ、高、地、
 ニ、居、リ、何、デ、カ、伊、言、ス、ル、モ、言、語、不、通、シ、心、解、
 セ、サ、リ、シ、モ、何、デ、ア、ワ、テ、書、江、ニ、来、リ、先、カ、又、タ、
 銃、砲、及、ビ、仕、込、杖、オ、ハ、何、ノ、右、ノ、ニ、以、持、テ、ヤ、シ、
 尋、ホ、ル、モ、ノ、如、ク、思、シ、マ、リ、残、オ、ハ、材、木、購、入、ノ、右、ヲ、
 来、リ、先、モ、シ、シ、テ、銃、器、仕、込、杖、ハ、獲、身、吳、シ、テ、
 軍、人、ニ、シ、テ、ラ、サ、ル、古、ク、取、寄、メ、夫、字、ヲ、以、テ、
 ハ、メ、ル、マ、リ、替、ク、シ、シ、テ、祝、言、シ、海、ニ、教、セ、右、右、
 戻、リ、後、ス、古、ク、示、セ、右、右、出、ス、ヤ、右、
 暗、黒、ニ、セ、テ、シ、バ、残、オ、ヲ、右、右、戻、リ、以、ス、ト、ハ、
 右、リ、シ、シ、メ、何、カ、の、味、醋、ニ、サ、ル、モ、難、汁、ト、思、
 ス、モ、右、右、何、ト、モ、先、様、ニ、サ、ル、ニ、付、於、念、也、
 シ、カ、替、ク、シ、シ、テ、右、右、戻、リ、吳、シ、先、ヲ、以、テ、右、中、
 跡、リ、先、モ、ト、五、ニ、先、身、ヲ、悔、ヒ、キ、右、中、ニ、
 残、オ、見、レ、ハ、カ、シ、ル、後、ニ、四、獲、ノ、兵、右、モ、我、右、
 附、添、ハ、ア、リ、標、在、シ、兩、右、式、右、右、右、右、
 置、テ、残、オ、右、右、改、メ、右、右、右、右、右、右、

在朝鮮國嶺南浦

日本領事館

立去りたるバ黄接藩江口より上り
武十名にシテ口尾南渡り上り
スル能ハサルニ又々七八名
夜更に進行シ来り我カ所
浪吹ニ上ケ来り我カ所ニ
取合ヲおス付村之東
西名カ毎ニ来り我カ所
知信長ラシキモ在刺ヲ
行セサルヤノ尋伺付
上ヨリ示レ来リ吉江ハ
我カ身神ハ危事ヲ加
サレ来モ直渡ヲ待テ出
ナキ故沖吉丸モ其持
在朝鮮國鎮南浦
日本領事館
前五時頃潮ヨリ出帆シ
省力羅計ホリ棄ル
因ッ欠中事ラシラセ
進ニ其如末ヨ告ケ羅
口手前ハ姑留港ニ入
右ノ左那兵官兵カヤ
セガリモ服装ハ左那
付ケ来之早ニ兵トカ
存多ク次ニ跡考ヲお
短銃名銃、銃カヲ携
於テ此ニ通リナリト
シ又ハ銃ヲ向ケ来リ



あまの江岸にまゝに兵隊を居る
と其の故は不明なり
其標有るをり者並に及多
其武の通に有るは

在朝鮮國鎮南浦

日本領事館

多摩丸
仲吉丸

福百好志突於若松縣河津二番地
行居包 弘長 三十九年

國山家川島郡呼村百字二番地
行居包 弘長 山根 後松 三十九年

淡路島安藝郡庄橋島
行居包 弘長 三十九年

大分縣北條郡津尾木村大字馬場
七十二番地 弘長 三十九年

在朝鮮國鎮南浦 日本領事館
行居包 弘長 大田 三十九年

淡路島津島郡津江村
行居包 弘長 仁田 三十九年

野口丸

淡路島津島郡小古江村
行居包 弘長 空 三十九年

淡路島津島郡津江村
行居包 弘長 沼田 三十九年

豊浦郡二見村平民 竹居住

主理員 村元 三十九年

豊浦郡二見村平民 竹居住

主理員 森田 三十九年

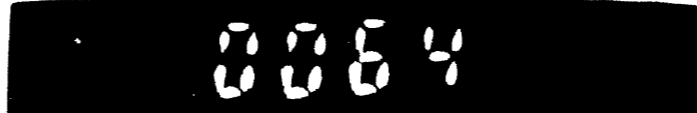
在朝鮮國鎮南浦

日本領事館

0063

5-1 3 2 6

一 銀貨 貳百拾圓	仲吉丸 波室 全品
一 紙幣 參拾圓	
一 八角掛時計	壹個 時價 三圓五十錢位
一 西洋形コンパ	壹個 時價 七圓位
一 コンパ	壹個 時價 壹圓貳拾錢
一 帆	壹掛 時價 拾圓貳拾錢
一 網類 食品 燗下 其他雜品 穀品	直料 拾貳圓位
一 軀體 破損	各以 參拾圓持品
一 白編酒帶	壹條 時價 九圓
一 單衣物 壹枚 立編給 壹枚	時價 六圓四拾錢
一 煙草 入	壹個 時價 四圓
在朝鮮國 鎮南浦 日本領事館	
一 麥葉 帽子 羅紗 帽子 靴 貳足 時價 拾貳圓五十錢	
一 洋傘	壹本 時價 壹圓五十錢
一 レンワ、ズボン 下 其他雜品 穀種	時價 拾貳圓位
一 銀 測 懷 中 時 計	壹個 時價 拾參圓五十錢
一 六連 發 び すと 丸 附 彈 藥 五 十 發	壹挺 時價 拾參圓五十錢
一 獵 銃 貳 十 番 徑	壹挺 時價 拾七圓位
一 西 洋 服	時價 貳拾五圓位
一 乘 組 負 可 持 品	時價 貳拾五圓位
一 粗 毛 布 着 物 靴 等 穀 品	以上
一 朝 日 丸 波 室 全 品	
一 韓 錢 三 百 五 十 圓	
一 コンパ	壹個 時價 六圓貳拾錢



八角掛時計	売値時價四円位
六連發 <small>ピストル 但し浦葉子銃</small>	売値 十八円位
一任江杖	売値 三円位
一西米	売値 拾貳円
一網球事具 其他雜品	凡 拾八円位
一船外破換	備儀新 貳拾叁円位
一全貳拾八円	<small>空荷即 浦田澤法 浦田勝法ノ所貯品</small>
以上三名ノ帽子衣類煙草入其他雜品	凡時價四十五円位
仁田十郎技客全品	
韓錢四百五十圓	
一商賣品	
内訳	
在朝鮮國鎮南浦	日本領事館
一韓人用眼鏡	五円時價貳拾叁円
一銀指輪	六円時價九円七角
一韓人用算盤	五円時價貳拾七角
一韓人用頭巾	八円時價六円八角
一韓人用帽子	八円時價六円四角
一金巾	十八円時價九十五円四角
一中着	六円時價貳拾四角
一任江杖	売値時價四円位
一撥既貳十番注 附屬品 売値時價十五円五角	売値時價 十貳円五角
一ピストル	売値時價 十貳円五角
一銀側懐中時計	売値時價 十圓四角
一洋服 <small>半二、八二着 小倉一着</small>	時價貳拾叁円位
一靴	売値時價 三圓七角

一毛布

是後時價三圓七十先

一襪三枚系入軍衣物反麻軍衣物刺取形軍衣物刺取

襪祥是取

時價凡貳拾叁圓伍

一金巾シヤツ

四圓

三圓三十先

一洋服飾其他雜品類品

三圓三十先

一洋傘

壹圓

壹圓五十先

一自縮緬兵兜帶

六圓五十先

一角帶

壹圓貳拾先

以上

在朝鮮國鎮南浦

日本領事館

三十三三九一號

長岡

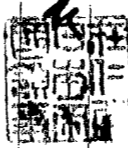
六月十九日

檢査者於九日信件中、在直轄清國安東縣附近、
於去月廿五日清兵、爲之擄奪也。財物、擄奪り、
り名留港在留本邦人所具材米船、長各々多量あり、
去月廿九日、南浦、海航外、成惠、難の末、書并、財物、
法領書、爲本、レ後、并、及、信、書、後、本、於、書、後、并、
法領事件、之、子、以、中、之、以、直、之、其、運、之、其、第、一、也、
何、時、辨、之、又、計、之、運、直、之、其、運、之、其、第、一、也、
申、達、致、書、

明治三十三年八月廿一日

領事

伊集院彦吉



外務大臣子爵青木周藏殿

被奪物件取戻差、不法行為、是ノ損害、
賠償請求御照會願

私共儀今般和船仲吉丸及朝日丸ニテ当國平安道
地方へ航行ノ際同北下洞沿岸ニ於テ清國兵ノ為
貯持ノ物品ヲ奪取セラレ後テ非常ナル損害ヲ被
タル儀、有之候、附テ御官、對テ種々御手数
ヲ相裁ケ候段誠ニ恐縮ノ至ニ奉存及、共何卒加
害者ヲシテ速カニ其奪取品ヲ返シ且ツ損害ヲ賠
償致ス様具筋へ御照會被成下度因テ別紙願
未書及ビ被奪品并、損害額見積リ書等ヲ相
添へ連署ラシテ此般奉願及也

明治三十三年七月三十日

福岡縣遠賀郡若松港惣助三拾貳番地平民

韓國仁川港公園地西手通、中野谷庄在吉寄西

仲吉丸 朝日丸 船長 谷口多士

岡山縣児嶋郡呼松村 番地平民

韓正仁川港

仲吉丸 船員 山根役松

廣島縣安藝郡倉橋海城村 番地平民

韓正仁川港

日 船負	榊石屋太郎	全上
大分縣北海部郡馬場		番地平民
韓王仁川港		
日 船負	大田保 松	全上
廣島縣佐伯郡大柿村字小吉江		番地平民
韓國仁川港公園地西手團中野谷屋松乃寄居		
朝日丸	空常四郎	全上
全知全郡深江村		番地平民
韓國仁川港公園地通		
全 船負	沼田澤四郎	全上
山口縣豊浦郡二見村		番地平民
韓國仁川港		
朝日丸 船負	兼次	山口多吉
廣島縣佐伯郡大柿村字柿浦		番地平民
韓國仁川港		
全 船負	藤田勝次	全上
全知全郡		番地平民
韓國仁川港公園地		
仲吉丸 乗客	仁田十郎	寄居 行商



領事 伊集院彦吉殿

3

5-1 3 2 6



4

顛末書

谷口多吉ハ材木類購買ノ為、具所有船(仲吉丸)二隻
 ニテ当國平安道北下洞地方へ航行ノ目的ヲ以テ本月
 十日当仁川港ヲ出帆スルニ当リ自己以下船員三名及ビ
 乗客仁田十郎(行商者)ノ五名ハ仲吉丸(百四十石積)ニ又此
 常四郎以下船員三名乗客具韓人三名(仁田十郎ノ通年)ノ五
 名ハ朝日丸(小廻り船)ニ乗船シ全日午前ニ時ニ解纜シ支シ
 ヲリ航途ニ上リ全月十日鴨綠江ニ入り全日午后四時相前
 後ニテ目的地ニ到着仲吉丸ハ朝日丸ヲ距ル凡ソ三町許沖
 合ニ後レ尚徐々河口ニ進入スルニ際ニ當時左岸ノ陸地(清國)
 安東縣下ニテ清語サレト稱シ海陸ノ設置了ん然ニ於テ數名ノ清國
 兵在リテ喇叭ヲ吹キ立テ非常召集ヲナシ豫テ全沿岸ニ繫
 泊セル清國用船六隻(新造船)ニ清兵約五十人宛許リ分衆
 シテ潛出シタリ而シテ具舉動何トナク通常ナラゲルノ感ヲ
 リレモ目下清國事變ノ折柄ナレバ定メテ具件ニ関シ出兵
 スルモノナラント推察シ二隻兵前後相離間シテ進江セ
 シニ豈圖ランヤ清兵等ハ我レ等ノ乗船ニ向ヒ六隻ノ中
 三隻ハ先進ノ朝日丸ヲ目撃ケテ進シ他三隻ハ仲吉丸ニ
 向フテ潛キ着ケントス此ノ怪状ヲ認ムルヤ朝日丸船員等ハ
 清兵接着ニ先々乗客韓人ヲ本船ニ留メ置キ短艇ヲ御

シ陸地ニ向ツテ避難セントセシニ清兵等ハ早クモ之ヲ見
認ソ直チニ銃口ヲ差レ向ケ將ニ狙撃セントスルノ勢
ヒヲナレケレバ同船員等ハ到底避難ノ途ナキヲ以テ
忽チ思慮ヲ變レテ仲吉丸ニ向ツテ潛キ寄セ遂ニ之
レニ同船セリ然ルニ仲吉丸ニ於テモ清兵等用船三隻
ヲ以テ押シ寄セ来タレリ而シテ尚ホ清兵百人許リ
宛ヲ搭載セシ清國船ニ隻各々一隻宛朝日丸ト仲
吉丸トニ向ツテ潛ギ寄セ来タレリ斯クテ清兵等ノ我ガ
仲吉丸ニ接者スルヤ先グ我レ等九名ヲ具清國船ニ強
制移乗セシノ數十名ノ清兵等後刀短銃ヲ以テ嚴
密ニ警固シ又ガシノ間隙モアラシナガリキ而シテ彼レ等
ハ我ガ仲吉丸ヲ無理手段ヲ以テ自國ノ沿岸ニ轉航セシ
メントシ傍ヲ所載ノ財物ヲ手当り次第ニ強奪ヲ始メ
タリ曩キニ清兵ノ我ガ仲吉丸ニ接近スルヤ我レ等到底
生命ノ覺束ナキヲ豫想セシカバ此際一生懸命防禦セ
ン事ヲ議セシモ何分敵ハ五百ニ餘ルノ大勢而カモ刀槍
銃劍ノ用意周到セリ而シテ味方ハ僅々十名ニ充タガレ
ノ小勢加フルニ一ニノ護身用器ヲ帶グルニ過ギガレバ輕
燥却テ徒死ニ陥ルノ憾ナキヲ保セザルニ依リ遺憾ナガラ
具抗思ヲ翻シタリ清兵等ハ具掠奪ヲ了ルマ船員

山根役松大田保松ノ二名并ニ彼等ヨリ附隨セシメタル守備
兵ニ名ヲ仲吉丸ニ務東セシメ他ノ七名(我等九名内)ハ其儘
清國船ニ留置シ全船ノ仲吉丸ヲ離ル、ヤ他ノ三隻モ亦
続ヒテ相離レ具船尾ニ隨行シ四隻共四五回迂迴航
シテ七八町許ノ距離ナル陸地ニ着船セリ又夕我ガ朝日丸ニ
向ヒタル清兵等モ全時ニ具轉航及ビ奪財ヲ行ヒタル後
同ク守備兵ニ名ヲ置キ他清兵ハ悉ク飯岸ナシタリ其
後々清兵等ハ我レ等七名ヲ具ノ船ノ艙室中ニ押籠
メ口蓋ヲ閉鎖シテ密監シ凡ソ三十分間許ヲ經タル後
開蓋シ墨壺及料紙ヲタル清兵壹人書記壹人裝彈
セル短銃及ビ抜カヲ持テタル敵言固兵ニ名外ハ士官風ノ武
人壹名都合五名ニ面接スル、其ノ士官風ノ武人我等七
名ニ對シ職業原籍及ビ具他強達ニ係ル護身用ノ
銃刀ニ附キ具携帶セシ理由ヲ詳細ニ取調ベ悉ク之ヲ
筆記セシメタリ素ヨリ彼我ノ間通譯ナク筆談ヲ以テ
問答ヲ始メタリ而シテ我レ等七名ハ淺學或ハ無學ニシ
テ彼等筆問ノ字義多ク不了解ニ屬シ結局不完全
ナル筆答ニ止マリタルヲ感ズ具取調中敵言固ノ清兵
等形容ヲ指示シテ曰ク若シ眞實ヲ以テ告ゲザル時ハ軒
殺或ハ財殺スルトノ情意ヲ示シ既ニ刀身ヲ頸部ニ



当テ或ハ短銃ノ筒先キヲ差シ着ケル等殘酷的ノ
強脅ヲ加ヘタリ而シテ具取調ノ終了スルヤ再び室蓋
ヲ閉カシテ依然我等七人ヲ密監シ同船ハ直チニ拔
錨シ何ヘカニ向ツテ發航セリ

是ノ時ニ當リ彼等ノ所為ニ附キ勘考セシニ到底
百死ヲ出ヅルヲ難ラン若シ事ノ爰ニ迫ラバ互ニ勇
鼓シ具隙キヲ窺ヒ彼等一人ニテモ噓ニ殺スナリトモ打
午殺スナリトモシテ日本男兒ノ氣象ノ程ヲ知ラシメント當
時密監中ニシテ我等恠議セシ覺悟ナリキ漸クニシテ
船ノ動搖ヲ止メタルノ由ニ室蓋ヲ開放シ外出ヲ促シ

タリ既ニ室外ニ出デ、具周圍ヲ回視スルニ該船ハ
早ヤ我が仲吉丸ニ接着セリ次デ彼等ハ我等ヲ轉
乗セシメ全時ニ彼等ノ先キニ遣ハセシ守備兵ニ名
ヲ移乗セシメ且ツ我等ニ對シテ手真似ヲ以テ出帆ヲ促
シ具レヨリ朝日丸ニ赴キ復タ先キニ遣ハシ置キタル
守備兵ニ名ヲ乗セ返シテ帰岸セリ時將リニ午
后七時半頃ナリシナラン

我レ等一同是ニ至ツテ始メテ蘇生ノ思ヒヲナシタリ而
シテ茲ニ一ツノ奇蹟トモ稱ス可キハ先キニ我レ等七名
ノ清兵ニ捕束セラレ彼ノ船ニ移乗スルヤ仲吉丸ニ

残レタル我ガ船員二名、對シ當時其ノ守備兵タル
 二名ノ内一人ハ取モ未熟ナル日本語ヲ以テ謂ヘラク予ハ
 先年日清戰役ノ際捕虜トナリテ日本宇品ニ送ラ
 レシコトアリ其際受ケタル日本ノ好遇ハ今ニ至ルモ忘ル
 能ハズ其恩ヲ報ズル此ノ時ニアリ予復タ今回ノ事
 業ニ付再ビ兵役ニ自ラ投ズ必ズヤ一身ヲ犠牲トナシ
 テモ君等ノ生命ヲ全フスルノ責ヲ負擔ス此ノ點ニ於
 テハ身毛モ患フル勿レト懇々慰諭シタルノ一事ナリ
 斯クテ朝日丸乗組員ハ直チニ本船ニ舳リ置キタル紳
 人某、其後ノ模様ヲ伺フニ只先キ、清國兵襲來ノ際
 本船ノ航ヲ強行セラレ其際帆及船体ノ一部ニ毀損
 ラ受ケタルト同時ニ所載ノ財物ヲ掠奪セラレタル後
 ハ別ニ異状ナカリシ由ヲ答ヘタリ而シテ既ニ出帆ノ準備
 ヲ整ヘ二船共碇路ニ就キニ朝日丸ハ凡ソ三四町
 程進航セシ頃淺洲ニ乘リ揚ゲ為メ、其進行ヲ為ス
 能ハズ先進セシ仲吉丸ハ此ノ異状ヲ認ムルヤ直チニ投
 錨シ谷口多吉仁田十郎ノ兩名留守ヲナシ他船員三
 名ヲ救助ノ為メ朝日丸ニ赴カシメタリ然レバ時正ニ于潮
 ミテ亦如何トモ手術、盡シ様ナカリキ斯ル上ハ唯湍潮
 ノ時ヲ待ツノ外、途ナシト其儘潮時ノ至ルヲ待チ居タ



リニ復々清國船一隻具場ニ漕ギ来り同船ニ乗来セ
 ンヲ告ゲシニ依り船員数名ヲ具船ニ赴カシメシニ船中
 清兵六七名アリテ我が朝日丸ノ停滞ヲ責問スルト共ニ
 急進ヲ促スニ在リ然ルニ我が名ノ船員之シニ答フルニ
 何分夜航ノ上不安内ノ海中ニテ浅洲ニ乗揚ゲシニ依
 リ到底満潮迄出帆不能ノ旨ヲ陳述セシニ清兵等
 モ亦責問セズ翌朝先導船ノ任ニ當ランヲ約ス
 而シテ廿二日午前ニ時頃潮ノ満マルニ隨ヒ朝日丸モ
 漸次ニ浮上スルヲ得タリ是ニ於テ右清國船ノ船尾ニ
 從ヒ出帆セシニ斯クテ二三町程モ進行セシト思フ頃

先導船タル清國船ハ同所ノ浅洲ニ乗リ揚ゲ梶
 ヲ損シテ具任ニ堪フル能ハズ時ニ清兵七名ノ内士官
 風ノ名別レヲ告ゲルニ際シ予ハ斯ノ如キモノアリトテ
 附屬書乙号ノ通りノ名刺ヲ投與シテ漕ギ来リタリ
 朝日丸ノ無異ニ進航ニ就キタルニヨリ仲吉丸船員モ
 本船ニ舛リ共ニ按鑑出帆ニ相前後シテ帰航セシ
 モ何分風雨ノ為ニ進程意ノ如クナラズ廿五日午ノ前
 ハ時漸ク大和島ニ寄着シ當時在泊ノ本邦軍艦
 磐城号ヲ訪ヒ全艦長殿ニ面謁ヲ乞ヒテ前陳ノ
 事情ヲ開述シ清兵等ノ為ニコンパツマテ掠奪セ



一、再後ノ航路危険ナルヨリ該品ノ貸下ヲ懇請
 せしこ直チニ許容アリテ即時ニ所用ノコンパツモ個
 ヲ貸下ラレ且ツ新水食物等ニ關之ニ補與ス可
 キ等種々懇到ナル注意ヲ辱フスルニ至シリ然レ
 右等諸物品ハ幸ヒシテ未ダ腐之セガル旨各申
 レタリ而シテ艦長殿前送ノ事状ヲ聽了セラルヤ
 具附近ノ派遣アリレ測量船ノ危険ヲ察セラレ
 直チニ敵艦ヲ命ゼラル、ニ至シリ
 我等ハ同艦長殿ヨリ鎮南浦駐在日本領館行
 キノ書翰ノ取次ヲ托ヒラレ同日午前十一時二船共
 同所ヲ出帆シ廿八日午前七時鎮南浦ヲ着船シ其
 筋へ前陳ノ上申ヲ為シ置キ而シテニ隻ノ所有船
 ハ裏キニ清兵ガ北下洞ニ於テ強制轉航ヲ為シタル
 為メ船体及帆ニ毀損ヲ受ケタルヲ以テ此儘航海ヲ
 為ス能ハサルニヨリ同地ニ繫留シ其修繕ニ着手
 セシメ船長ニ谷口多吉乗客化田十郎、兩名ハ本件
 ニ關シ別紙取調書ノ通リ被奪物品取戻及損
 害額要求ニ對スル手續キヲヤリガ為メ全日出浦
 ノ汽船何特諾九ニ便乘シ全月廿九日当港ニ停着
 致シタル儀、有之候事此般顛末書ヲ以上申仕長也

11

明治二十七年七月三日

朝日丸 船長

谷口多吉

仲吉丸 船負

山根役松

全

榊石園太郎 全上

全

大田保松 全上

朝日丸 船負

空常四郎 全上

全

沼田沢四郎 全上

全

兼次 全上

朝日丸 船負

三善田勝次

乗客

仁田十郎



甲号

12

新

損害取調書
 被奪品并、損害
 見積り書

一金貳千百貳拾貳円七拾九銭也 総損害高

外仁川海關噸税領収証書及仁川監理署韓國内地航海認可書

内譯

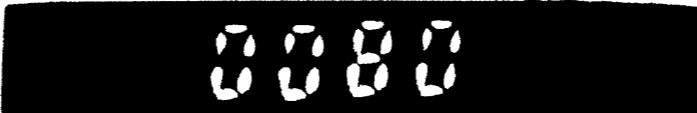
被奪品 品目	個數	被奪品價額及損害 金額	被害者氏名	所載船名
韓貨	三百拾四	金百八拾四六拾銭	谷口多吉	仲吉丸
日本銀貨		金貳百五拾円		
全紙幣		金壹拾円		
八角時計	一個	金二円五拾銭		
航海用 コンパス	一個	金七円		
磁石	一個	金壹円貳拾銭	谷口多吉	仲吉丸
ソーリケン カバ	一個	金拾四圓四拾銭		
小道具 種々		金拾五円		
縮緬帶	一	金九円		
單衣	二	金六円四拾銭		
煙草入	一	金四円		
帽子	二	金拾貳円五拾銭		
靴	二	金拾貳円五拾銭		
洋傘	一	金壹円五拾銭		
雜物 トヤウホケン等	取台	金拾貳円		
襟時計	一	金拾三円五拾銭		

5-1 3 2 6



13

六發短銃	一	全拾六匁	全	全
手八 揮銃	一	全拾七匁	全	全
洋服	二組	全貳拾五匁	全	全
韓貨	三番拾匁	全三百〇壹匁	全	朝日丸 對スル分
航海用 コンパツ	一個	全六匁貳拾五匁	全	全
船時計	一個	全四匁	全	全
護身刀	一	全三匁	全	全
白米	一石	全拾八匁	全	全
船道具	取合	全拾八匁	全	全
修繕費		全拾三匁	谷口多吉 ル分	朝日丸及仲吉丸、其ス
外 被奪品月 個數	小斗 金千貳百八拾五匁八拾八匁也	仁川海軍醫院領収書及仁川監理署ノ傳至内地航海 認可書等共 被奪品價額及被奪 被害者姓名 所載船名		
衣類	取合	全貳拾匁	山根從松	仲吉丸
	小斗	全貳拾匁也		
衣類	取合	全拾五匁	林石園	仲吉丸
	小斗	全拾五匁也		
衣類	取合	全拾五匁	大田保松	仲吉丸
	小斗	全拾五匁也		



被害品目	個數	被害品価格及損害金額	被害者氏名	所載姓名
護身用杖	一	金四円	仁田十郎	仲吉丸
眼鏡	一	金拾五円五拾分		
六発短銃	一	金拾五円五拾分		
襟時計	一	金拾四円		
手文九洋履 小倉洋服	一	金拾五円		
靴	一	金三円七拾分		
毛布	一	金四円五拾分		
縮備スユギ	一	金六円五拾分		
糸類取金	九	金拾五円		
レヤフ	四	金三円七拾分		
小皮箱	一	金三円拾分		
ズボン下	四	金三円五拾分		
手拭道具等		金五円		
洋傘	一	金三円拾分		
カサメシ	一	金六円五拾分		
小金帯	一	金三円五拾分		
石目鏡	五	金五拾五円		

但し桐月七
郎



女指輪	六	全九月六拾身	全
銀ノ鑿刺 解人向キ	三	全二月七拾身	全
バチ チヨウリ	十八	全七月九拾身	全
チヨウ	八	全六月八拾身	全
女カコリ	四	全四月八拾身	全
笠	八	全六月四拾身	全
反物	十八匹	全九月四拾身	全
キンキヤク	六	全二月四拾身	全
横着巨俵		全九月六拾身	全
通条信科 <small>手子也十身 子也十身</small>		全四月五拾身	全
通条世坂 <small>一(世俵)</small>		全八月	全
巨俵 <small>(世俵)</small>		全八月	全
日当 <small>本町上町 上町下町 下町上町 下町下町</small>		全拾五月	全
		小計 全七百拾四月也	
		右ノ通ノ序座五也	
		谷口秀吉	
		山根紋松	
		<small>谷口秀吉代下</small>	

10



乙号

張樹木林

(裏面)

尉村行一

右原本ニ依リ謄寫スル也

明治三十二年七月二日

谷口多吉

18

5-1 3 2 6

0005

廿三年九月一日接受

主官 政務局



公分一二〇七号

本月十日香港林特命全權公使より香港駐留本
 邦人倉田武平中由新加波ル七ノ去月三十日當國憲城
 ノ對岸清島通化外ニ於テ清兵ヲ捕一二九名平
 壤ニ放リ電報アリ先越更ニ自知本國越境者直ニ囚人
 寺當港ニ於テ消息ヲ探テテ多ク送テ交テ試ル者
 ノ自リニシテ囚人等ノ該地方ニ於テ清兵ノ為ニ捕獲
 突此ニ越回ニ於テ本邦カト思惟該段將又當使
 不測ニ依ハ當港在留公使ニシテ該地方ニ越テ捕獲セ
 以地ニ無之義ニ是之也ト云々會同武平ノ如キ現ニ内地旅
 行者ニ交付ラ受ケスニテ旅行該段ヲ探ル次者再此種無
 格業者ノ竊ニ旅行ニ於テ多ク或ハ之レアテカト認有也
 此等者及易車等ヲ

日本領事館

明治三十三年八月廿三日在江川

領事 伊集院 彦吉



外務大臣子爵青木周藏殿

總務局
 收
 安東 伴

倉田重平中田新松ニ萬スル付ニ付申
然本邦天草郡本庄におる程に多岐重氏
仁川港朝鮮所京博通ニ此任セシ者

倉田重平

天保三年六月

仁川港朝鮮所京博通ニ此任セシ者
仁川港朝鮮所京博通ニ此任セシ者

中田新松

天保三年六月

右取巻ニ及ル中田新松仁川港朝鮮所京博通ニ此任セシ者

在韓國仁川港

日本領事館

ハおメ捕獲トシテ所懸ニ付香港ニ控ル至人オ
ニ其故ニ員儀ノ多キハ本邦ニ在ル下能
ニ本邦四年四月二十六日頃密ニ當城ヲ進ニ黄
海道延島郡ニ至リ韓人ニ對スル於其内
ノ候中取立ラおカレトセシモ僅ニ三四回ヲ交ル
リ然南浦ニ至リ津在セシト云ウ中田新
松ニ是亦員儀ノ多キハ本邦ニ在ル下能
田東一頁ニ及ル下候故ニ上野緑工ニ控ラ
砂金ヲ採ルセシト本年九月廿九日陸路
南浦ニ到ル昔倉田重平ニ此任セシ者

中田倉白京白三名共ニ本年五月廿四日
 南浦ノ地ニシテ自セリテ事ニ意ヲ持テ
 至リテ中江ト稱スル所ニ移リテ所
 至程上ニ地ニ名ハ書シタルニ厚島ト中江
 ノ中実ノ地ニ於テ所ニ移リテ稱スル所
 及シテ誠クモ好結果ヲ見ス既ニ十日留
 フ陸上ニ至リテ船ヲ用シテ採取セリト
 京白東ニ江ニ至リテ船ヲ用シテ採取セリト
 著シキリ時ニ七月四日ナリシ物ニ京白東一
 所準備ノ船ニ乗リテ至リテ採取セリト
 断念シ更ニ翌日ニ至リテ採取セリト
 江ハ中田倉白ニ至リテ採取セリト
 フ買入レ義我ニ至リテ採取セリト
 ナリシ者ハ中江ノ對岸ニ地ニ至リテ
 名程ノ長キアリシト
 友倉白ニ至リテ採取セリト
 舞所只ニ船ヲ用シテ採取セリト
 中江ニ至リテ採取セリト
 目下強シト地ニ至リテ採取セリト
 中江ニ至リテ採取セリト
 明治三年八月五日
 中田倉白
 領事 伊集院 彦吉 殿



九月十日
外二

大臣
Aoki

Seal 10-9-900 3:35 P
Recd " " " " " "

Aoki

Tokio

222. 蕙城郡守 reports to the Korean Government that two Japanese 倉田 and 中田, who had been arrested by Chinese and taken to 通化縣, have been massacred together with several hundred Chinese Christians and Korean converts. Refer my telegram 197. Hayashi.

一八〇五

15.39

白公使通知

5-1 3 2 6

0009

電信譯文

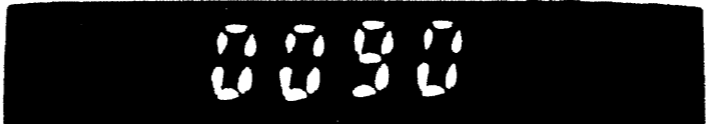
三十三年九月十日 三三三五六
六
着

青木外務大臣

在韓 林全權公使

第百二十七號

曩清國人ノ捕テ所トナリテ通化縣ヘ引致セシム日本
人倉田中田ノ兩人ハ數百名ノ清人及韓人ノ基督教徒
ト共ニ虐殺セシム自燕城郡守ヨリ韓國政府ヘ報告
リタリ本官電信第百九十七號ヲ参照アリ



廿三年九月十八日發

香港總督



附録

公才一二シテ

受第一四五四二

香港在自中野人合因武平中因新板五人
 中向道慈母郡附近に於る法兵、多ク捕
 ラシタニ、其ハ、之ニ突クニ當港、取調ハ其
 サシガ公才一二シテ、其申送置、其時
 慈母郡守ヨリ、試テ、其ノ通、其ノ據、其
 事、其ノ確、其ノ得、其ノ事、其ノ意、其
 六、其ノ已、其ノ教、其ノセ、其ノト、其ノ推、其ノ送、其ノ文
 右、其ノ日、其ノ付、其ノ人、其ノ通、其ノ時、其ノ程、其ノ流、其ノ水、其ノ白、其
 然、其ノ由、其ノ時、其ノ流、其ノ水、其ノ白、其ノ地、其ノ在、其
 其、其ノ全、其ノ寫、其ノ共、其ノテ、其ノ考、其ノ者、其ノ為、其ノ事、其ノ由、其ノ條、其ノ由、其ノ書、其ノ圖、其ノ成
 然、其ノ時、其ノ由、其ノ書、其ノ圖、其ノ成、其ノ具

此ノ書、其ノ
 由、其ノ事、其ノ
 意、其ノ事、其ノ
 其、其ノ事、其ノ
 其、其ノ事、其ノ

在韓國仁川港

日本領事館

此書慈母郡守ノ保護セム事為物之個ハ日人

等ノ連絡ノ引接スル事目的ヲ以テ香港總督

其取調セ方ヲ進任法由テ取調セ下付也

明治三十三年九月七日

在仁川

領事伊集院義典



外務大臣子爵青木周藏殿

照會字

大韓去年在北道 慈城郡守朴恒泰為照會事
本年七月一日貴國大臣回京第一郎為因武平中
新格等因辯全烟賢過本郡烟路照有無所向
何地則自京畿黃海轉向本郡中江將還仁川港居
地云幾日後原回漢到本郡故烟如河更來則本
中日從水路已去渠則從陸而還去云其同日
通辯全烟賢來告本國中烟留於中江越邊採
金處再昨日到本郡長津里江邊被捉於情兵現在
通化縣漢河地方云故烟甚驚慮即為照會於該地團練
將要其後還則業已押送該縣之意示西漢而且烟得說已
社團匪之可害云其死生雖未確知第念彼情難保其生
極係慘惻而所帶行具亦為清人之攫去共一手紙類在
在韓國仁川港 日本領事館

店主收置故使通辯全烟賢堅封焉此以待

貴國復生給為

計而通辯全烟賢重費十七兩五錢回還旅費二十三兩四錢五
錢實統上送茲以照會所為手印項即送人推去功要

左照會

大日本駐仁領事

光武四年八月十二日



百子に就て見右凡此一事の信を了るに
 目下此地に信受するも其の事申す可
 け水に地を留し自給のよしを申す
 厚くは越す日本に於て事致す事申す
 後と目し候し日七降り旅宿に宿る日
 海におき向ふ日中三日を銀塊并に
 了らば事畢す之を宿に留し四日
 依り之を氣付かす事候し居り候
 之を宿に留し候し候し候し候し
 持し候し候し候し候し候し候し
 約行郵守照会状ヲ持し候し候し

在朝鮮國仁川港

日本領事館

増築送并七位上ノ早

今般匠亦各地ノ紛乱ニ際シ存於邊境者ノ
才亦追々相出シ之者有之候得共猶
有者之形多ク調和合有之者多ク是レ地
復自ノ邊境ノ外者亦多ク是レ地
内其地を要者ニシテ後多件ニ付テ直轄
陸軍ニシテ採集ニ付シ又邊境ノ要求ニシテ
多ハ可中ノ邊境ニ據ル其ノ要求ニシテ
ノ要求全額ヲ用出サシメ而邊境ノ要求
策ニシテ修及シ合ニシテ
明治二十九年九月廿五日

外務省 外務大臣 野村浩将

外務省

五仁門
智庫伊集院考考般

信吉ニテ京ノ部ニ付

庚子年九月廿六日發
通商局

壬寅 政務局

通商局

發
六六 號

16840

總務長官

韓國仁川港居留外國人矣因於甲子丙申秋松
兩人由官國平安道慈城郡官下鴨嶺江沿岸於
于清國官兵為捕之通化縣之押之也又於一
件三矣其裏之在平壤之改在在在在在在在
告三由概略申改於去月十九日由平安北道
觀察使引外部大臣連之其後告于其二人係其
後由使引之於清之其為之其也其也其也其也
按有三條係之不取敢大之其及電稟置候傳
其受別報生其其其其其其其其其其其其其其

特命全權公使林權助
外務大臣子爵青木周藏殿

在韓國日本公使館

追于在北宮帝國公使于本又據通技及系
小島吉平也

報告出牙十九号 (河内)

管下慈城郡守朴恒來者百廿四号報告書に接
るに陰曆六月初日平人原田藤一郎蒼田武平中田
新科も者通弁金炳賢ヲ從へ本郡ヲ過し候に付共
旅券の有無及ヒ往ク所ヲ尋ネしと原田ハ現に本道
遊歴ノ旅券ヲ有し蒼田中田ハ只京釜黃海西道ノ
旅券ヲ有し原田ハ隨て此地に到り轉じて仁川港に向
つて十旨ヲ答候に付其境界ヲ踰越スルヲ責メテ直
ニ歸ラシム然レ幾日後原田再々本郡に來り候に付
其來意ヲ探問スルに蒼田中田ハ水飲ヲ歸リ彼陸
政ヲ歸ルトノ由ニ有之候然レ陰曆本月五日該通
弁金炳賢來り告ルに蒼田中田ハ近頃本郡ヨリ
中江ヲ越へて對岸採金スル處に留まり一昨ヨリ至リ

在韓國日本公使館

本郡長土面長城里ノ江邊に到リテ清兵ヲ捉へ去
ル處ト相成自分ハ幸ニ身ヲ過クルヲ得テ此ト來レリ
トノ事ニ付直ニ彼ノ因練將陳萬仁ニ照會シテ其放
逐ヲ要求セシト已ニ通化縣に押送セシ者ノ田差ヲ得
候に付該通弁ハ此ノ本郡に留メテ日人ノ生死ヲ確
メテ去就スヘキ様取斗ラシ候處現に通化縣流寓
ノ我民金に引傳へ所ニ依りて該日人ニ名を以て因
匪ノ殺ス所トナシ我民ノ境ヲ越へ即蘇杭に入りし者
百餘名ト清人ノ入教者數百名ト書テ紅紙ヲ云
ル様メテ驚愕ニ係リ茲ニ報告及ヒ向轉報を成者
者申來りしに付茲ニ報告及ヒ候に盡心希望
光武四年八月二十日

平安北親守使署記事通郡守鄭周然



議政府禁心部大臣朴商休閣下
（卷の二 倉田清三）

在韓國日本公使館

一覽
一覽

5-1 3 2 6

0099

2603

三十三卷第十一回

支那通商

第七

今般清國各地、接報、聞、本邦商難者、其、在、調查報告、件、存、去、月、廿、日、本、國、海、軍、省、長、官、錦、山、以、下、列、各、事、務、司、示、以、列、各、事、務、司、之、進、行、方、法、等、類、其、中、最、為、要、者、為、本、國、海、軍、省、長、官、錦、山、之、上、述、各、事、務、司、之、進、行、方、法、等、類、其、中、最、為、要、者、為、本、國、海、軍、省、長、官、錦、山、之、上、述、各、事、務、司、之、進、行、方、法、等、類

明治二十三年十月廿日 在任

領事 伊集次



外務大臣 齋藤 本周 敬啟



清國義和團騷擾事件ニ關シ遭難者表

姓名	原籍	現住地	身分及職業	遭難年月日	遭難地	捕要	死傷
倉田武平	熊本縣天草郡本戸村三百十六番地	同	同	同	同	同上	同
中田新松	岡山縣児嶋郡呼松村百九十八番地	韓國仁川港杵岫京城通	平民	明治三十三年七月二十七日	韓國慈城	行商、為朝日丸二便乘航海中、因標、難、遭、シ	被害セシキリ、救害セシキリ、事實ナシ
仁田十郎	廣島縣佐伯郡廣島縣佐伯村名不詳	韓國仁川港公團地下	行商	同	同	同	同
藤田勝次	廣島縣佐伯郡大柿村字神浦番地不詳	同	同	同	同	同	同
村元兼吉	山縣豐浦郡宇賀村番地不詳	韓國仁川港	同	同	同	同	同
沼澤二郎	廣島縣佐伯郡深江村番地不詳	韓國仁川港公團地通	同	同	同	同	同
空常四郎	廣島縣佐伯郡大柿村字小石江番地不詳	韓國仁川港公團地西、中野谷庄藏方	同	同	同	同	同
大田保松	大分縣北海郡馬場番地不詳	仁川公團地西、手通、中野谷庄藏方	同	同	同	同	同
榊原太郎	廣島縣安藝郡倉橋嶋海越村番地不詳	同上	同	同	同	同	同
山根俊松	岡山縣児嶋郡呼松村番地不詳	韓國仁川	平民、船乗	同	同	同	同
谷口多吉	福岡縣遠賀郡若松港懸町二十二番地	韓國仁川公團地、西手通、中野谷庄藏方	平民、船乗	明治三十三年七月二十一日	鳴緑江、左岸安東	材木購買、為仲吉丸朝日丸二隻、以韓國平安道北下洞地、航行中清兵、為捕獲セラル、貨物ヲ掠奪セラル	異情ナシ

調査書

明治三十三年七月一日

第七九

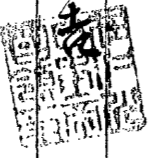
清國義和團擾亂事件：関に遭難者氏名其他之を概
 密に檢査し、訓示：基に遭難者人名表、機密を
 對七部に以て、既及報告を以て、被難者中、慈城
 郡古城に於て、清兵、爲に捕獲せし財物、掠奪を蒙り、
 後消息不明、被成中、田新松倉田武平、兩人、其後
 奉天府附近に於て、被害せしる、風説を多し、事
 實に思惟被成及び同人員等、遭難者、被奪財物、要
 償を、遺族扶助料、請求を別紙、甲部乙部、自ら
 願出せし、遺族扶助料、二付に遺族等、於て、要
 示金額、定むる、及ハ、巨額、請求、及可申、願書中
 金額、豫定、八、千、五百、圓、に、當り、於て、生活費、金、利、等
 、割合、算定、し、倉田武平、遺族、對して、八、千、
 五百、圓、中、田新松遺族、對して、千、五百、圓、に、要す、至、當
 下、被難者、及、其、遺族、等、に、申、渡、す、時、又、野、保、江、時、清
 田、安、東、東、下、に、遺、難、者、朝、丸、お、一、艘、乘、組、員、投、賣、
 要、償、額、八、千、百、圓、に、對し、九、千、八、百、圓、に、以、て、既、及、其、申、出、
 へ、上、申、出、訓、示、基、に、遺、難、者、名、額、書、寫、等、丙、部、
 外、に、申、出、し、及、其、遺、難、者、名、額、書、寫、等、丙、部、
 金額、何、れ、と、相、當、額、定、め、及、其、申、出、す、等、

明治三十三年七月一日

野保江

領事

伊集院彦吉



外務大臣 加藤 高明 殿

檄 第廿五號 紳士局

甲

清國擾亂ニ甚ク損害請来御照会致

原籍 能事縣天守郡本村三百廿二番地平民

當時 韓國仁川漢朝鮮外産苗

倉田武平

文久三年六月廿

在者係明治三十三年五月十日仁川漢出沒發韓
國平安道地方行商中今年七月廿七日(公)
城郡長城ニ於テ清國兵ニ爲ノニ捕縛推方常
品ヲ奪掠セラル上消息不明ト相成其ノ後清
國奉天府ニ於テ殺害セラルル風聞有之多

拜 雅 啓

分事實ト據察仕候ニ付別紙目錄本人増戸
帯品損害辨償ヲ受テ度且本人遺族ニ對シ
相当ノ扶助料金額付方候セテ其扶助(御請求
方御取手)被取テ奉致上ルヤ

韓國仁川漢朝鮮外産苗

明治三十三年

十月九日

大武平事

倉田カト

領事侍集院 殿 謹啟

大政部 出紙

倉田武平推世市流目錄書

一銀貨	壹枚	壹百廿拾四也
一鏡	壹枚	貳拾四也
一藥品	壹切	貳拾四也
一衣類	夏冬物三枚	貳拾四也
一外金	壹枚	八也
一時計	壹個	拾五也
一毛布	壹枚	五也
一革靴	壹個	叁也
一日本刀	壹振	五也
一洋傘	壹傘	廿四五也
一衣類	三枚	廿四五也
合計	金貳百叁拾九也	以上
<p>相違無三候也</p>		
<p>明治三十三年 十月十五日 倉田カト</p>		



倉田武平遺族

右武平

合

妻

倉田カト

長女

倉田カト

次女

倉田カト

長男

倉田武一

次男

倉田文平

右五名

右通方御座候也

明治三十三年

十月九日

倉田カト



大正十四年



檢査身世
附表

清國擾亂事
請未所照會領
原籍 岡山縣貝島郡呼松村大字呼松百廿八番地
當時 韓國仁川府朝鮮町字第...

中田新松
慶應元二年拾月生

右より右儀
明治三十三年五月拾日仁川港出立
清國平定道地方へ行高申
今年七月廿七日生
津那長津津に於て清國兵
爲大に捕縛相成
帶訊ラ有手探セラシム
止消息不明ト相成
其後清國又申天府に於テ
殺害セラシム

風聞有之
多分事実ト指察
任候ニ付
別紙目録
本人相の帯
品ノ項
實辨候
ラ受テ
度具
本人遺族
ニ對シ
相吉ノ扶助
科領付
方候
也
其ノ勸
ハ成請
尤モ取計
ト被
申下
存
在
也
其
年
輕
上
條
也

明治三十三年十月廿五日

韓國

領事 丸内保壽 呼井毛
何自事度及先及



中田新松指の世帯品

目録

一 草靴	老們	金貳圓 <small>や</small>
一 日本刀	老振	金五圓 <small>や</small>
一 外套	老披	金八圓 <small>や</small>
一 羽織	袴羽老披	金八圓 <small>や</small>
一 衣服	簪飾三枚	金九圓 <small>や</small>
一 帯	老飾	金四圓 <small>や</small>
一 肌着	四着	金三圓 <small>や</small>
一 帽子	老們	金三圓 <small>や</small>
一 洋傘	老傘	金三圓 <small>や</small>

以上控四品

代價合計金貳拾壹圓也

右の品一丸(圓)其の代價

明治三十三年九月廿二日

坪井 王上

中田新松遺稿

新潟縣中蒲原郡本陣村番地不詳
平民中田新松之遺書

右新松内縁書

坪井毛卜

明治三十二年七月二日

右長男

同 韻音一

明治三十三年八月生

右之遺書之成序候也

明治三十三年十月廿五日

坪井毛卜



檢査第九卷附録

丙

被奪物件取戻し并に不法行為を基
損害賠償請求御照會願

私共儀今般和船仲吉丸及び朝日丸に當り
安道地方、航行、際同北下洞浴岸に於て清國
兵、爲り取持、物品ヲ奪取セラレ從テ非常
ナル損害ヲ被リタル儀ニ有之候に附テハ御
官、對シ種々御手教ヲ相掛候故誠ニ恐
縮、至、奉存候、共何卒加害者ヲヒテ速
カニ其ノ奪取品ヲ返還シ且ツ損害ヲ賠
償致候様其筋、御照會被成下度因
テ別紙願末書及ヒ被奪品并ニ損害額
見積リ書等ヲ相添、此段奉願候也

明治三十三年七月三拾日

在韓國領事館

日本領事館

福岡縣遠賀郡若松港懸町三拾番

地平民韓團仁川港公園地西手通、中

野谷庄藏方寄留

仲吉丸船長

谷口多吉

岡山縣児島郡呼松村

番地平民

韓團仁川港

仲吉丸船員

山根

松

廣島縣安藝郡倉橋島海越村

番

地平民韓團仁川港

仲吉丸船員

株

石関太郎

番

大分縣北海郡馬場

番地平民

韓團仁川港

仲吉丸船員

太田

保

松

廣島縣佐伯郡大柿村字小古江 番
地平民 韓國仁川港公園西手通、中野谷
庄藏方寄番

朝日丸 空 常四郎 谷多話 仲平

今縣今郡 深江村 番地平民

韓國仁川港公園地通

朝日丸船員 沼田 次四郎 谷多話 仲平

山口縣豊浦郡宇賀村 番地平民

韓國仁川港

朝日丸船員 村元 兼吉 谷多話 仲平

廣島縣佐伯郡大柿村字柿浦 番

地平民 韓國仁川港

朝日丸船員 藤田 勝次 谷多話 仲平

在韓國仁川港 日本領事館

今縣今郡 番地平民

韓國仁川港公園地下 寄番行商

仲吉丸乗客 仁田 十郎

領事 伊集院 参吉 殿

艤末書

谷口多吉、材木類、購買、爲ノ其所、艤船
(仲吉丸)ニ隻ニテ、吉國平安道北下河地、帆
行ノ目的ヲ以テ、本月拾七日、吉仁川港ヲ出
發スルニ、當リ、自己以下、艤負三名、及ヒ、乘客仁
田十郎(行商者)ノ五名、仲吉丸(百四拾石積)ニ
又、空常四郎以下、艤負三名、乘客某韓人、志
名(仁田十郎ノ通年)ノ五名、朝日丸(十廻リ船)ニ
乘船シ、同日午前、三時、鮮纜ニ夫レヨリ、帆途
ニ上リ、同月廿一日、鴨綠江ニ入り、同日午後、四
時、相前後ニテ、目的地ニ到着シ、仲吉丸、朝
日丸ヲ、距ルコト、凡ソ、三所、許リ、沖合ニ、後レ尚
ホ、徐々、河口ニ、進入スルニ、際シ、當時、左岸ノ
陸地(清國安東縣下ニテ、清語サレト、稱シ、海園ノ設置アルカ)ニ
於テ、數名ノ、清國兵、在リテ、喇叭ヲ吹キ、立テ、非
常ニ召集ヲナシ、濠テ、合沿岸ニ、繫泊セル、清國
用船六隻(新造船)ニ、兵約、五拾人、許リ、統分
乘シテ、漕キ出シ、タリ、尤モ、其、拳銃、何トナク
通常ナラザルノ、感アリ、ヒモ、元来、目下、清國
事變ノ、折柄ナレバ、多ク、其、件ニ、関シ、何シ
一カ、送兵スルモノナラント、推察シ、二隻、共、前後
相距リ、進江セシニ、豈、罔ラニヤ、清兵等、我
乘船ニ、向ヒ、六隻ノ、内、三隻ハ、先進ノ、朝日丸
ニ、目掛ケ、他、三隻ハ、仲吉丸ニ、向ツテ、漕キ着
ケントス、此ノ、怪狀ヲ、認ケルヤ、朝日丸、艤負
等ハ、清兵ノ、接着ニ、先キ、ダテ、乘客、韓人ヲ

本館蔵書

日本領事館

本船ニ雷ヲ置キ短艇ヲ却シ之レニ乘リ單身
 以テ陸地ニ向ケ避難セントセシモ清兵等ハ早
 クモ之レヲ見認ソ直ケニ銃ヲ向ケ狙撃セ
 ントスルノ勢ヒフナシケレバ同船負等ハ到底避
 難ノ途ナキヲ了シ茲ニ思慮ヲ轉シ遂ニ仲吉
 丸ニ向ケ漕キ寄セヤレニ集衆セリ然ルニ朝
 日丸ニモ仲吉丸ニモ同レク清兵等用船三隻
 死ヲ以テ接近シ尚ホ更ニ清兵百人許リ搭
 載ヒシ用船二隻各マ一隻死朝日丸ト仲吉
 丸トニ向ツテ漕キ寄セタリ斯クテ清兵等ハ
 我ガ仲吉丸ニ接近スルヤ先ツ我レ等丸名
 ヲ清國用船ニ強制移乗セシメテ數十名ノ清
 兵等ハ校刀或ハ單銃ヲ以テ嚴密ニ警固
 シマタ一寸ノ間隙モアラシメサリキ而シテ彼
 レ等ガ仲吉丸ヲ無理手段ヲ以テ自國ノ
 沿岸ニ擲蹴セシタルニ勉メ傍ラ所載ノ
 財物ヲ手当り次第ニ強奪ヲせメタリ
 曩キニ清兵ノ我ガ仲吉丸ニ接近スルヤ
 我レ等ハ到底生命ヲキテ豫想セシトバ
 此際慨感禁スル能ハス魂限り勢限り反
 抗ヲ試ミン事ヲ議シタルモ何分敵ハ五百
 以上ノ大勢而カモ火器利カラ推テ帯セシニ
 味方ハ僅々拾名ニ滿シザル少数ニシテ單
 一ニニ護身用蓋ヲ帯ブルニ過キサレバ
 輕拳却テ徒死ニ爾ルハ憾ナキヲ保セザ
 レバ則チ遺憾ナガラ一時其ノ抗思ヲ辭

在韓國仁川港

日本領事館

ンタリ清兵等、其掠奪ヲ了ルル船負山
 根役松太田保松ノ二名ト彼レ等ヨリ守
 備兵二名ヲ仲吉丸ニ移乗セシノ他ノ七名
 (我レ等ノ友)其僇彼ノ用船ニ番置シ今船ハ
 仲吉丸ヲ離ル、ヤ外三隻ノ用船モ統ヒテ
 離レ其船尾ニ副ヒ四隻共四五度迂回四
 帆シテ七八所許リ、距離ナル陸地ニ着船
 ヲリ又我が朝日丸ニ向ヒタル清兵等モ同
 時ニ其轉帆及ビ奪取ヲ行ヒタル後テ守
 備兵二名ヲ置キ悉ク坂岸ナシタリ清
 兵等ハ我レ等ノ内七名ヲ其用船ノ船室
 中ニ押シ籠ノ口蓋ヲ閉鎖シテ密監シ
 凡ソ三十分間許リヲ経タル後テ閉蓋セ
 此ニ墨壺及料紙ヲ携ヘタル清兵一人書
 詠一人装束セル短銃及板カヲ持テタル
 警固兵二名外ニ士官風ノ武人一人以上五
 名面接セルヤ其士官風ノ武人我レ等七
 名ニ対シ職業原籍及ビ其他淫奪セシ
 護身用ノ銃カニ附キ其携帶セシ理由
 ヲ詳細ニ取調ニ悉クセシヲ業詠セルノ
 タリ素ヨリ彼我ノ間通譯者ナキガ爲メ
 業詠ニテ問答ヲ悉クシタルニテ我レ等
 七名ハ漢字學或ハ西學ノ爲メ彼等ノ
 業詠スル字義多ク不鮮ニ屬シ結局
 不完全ナル業詠ヲヤスニ止マレリ其取
 調中警固ノ清兵等ハ形容ヲ指表シ負

社団法人

日本領事館

突ヲ告ケサル中ハ斬殺又ハ射殺スルトノ
 情意ヲ示シ既ニ刀身ヲ頸部ニ當テ及
 ビ其銃口ヲ的向セシテ教回ニ及ビ其
 残酷ノ淫骨ヲ加ヘタリ而シテ其取調
 ノ終ラスルヤ再至ロテ閉蓋シテ依然自
 分等七名ヲ密監シテ同船ニ板錨シテ
 何方ヘカ向ツテ渡航セリ
 當時ノ状況ニ就キ觀察スルニ到底百死
 ヲ出ツルハ難カラン若シ事ノ變ニ加ヘス
 ルニ至ラバ則ケ其障ヲ窺ヒ清兵一名ニ
 テモ噬ミ殺ス可シト覺シ同時密監中
 ニ在ツテ我レ等ノ決議セシ覺悟ナリ
 ナ漸クニシテ室中動搖ヲ止ケルヤ再ビ
 蓋蓋ハ開放サレ次ヲ外出ヲ促サレテ其
 瞻望外ニ出テタルニ今ヤ該船ニ我レ等
 吉丸ニ接着セリ而シテ彼等ハ我レ等
 七名ヲ擄來セシメ今時ニ同船ニ先遣
 セシ守備兵二名ヲ其清國船ニ乘リ返
 ラシメ且ツ手負似テ出航ヲ促シ置
 キ次ヲ復々朝日丸ニ赴キ先キニ遣
 ハセシ守備兵二名ヲ乘セ返シテ彼岸
 セリ時ニ午後七時半頃ナリ
 我レ等一同茲ニ南メテ蘇生ノ恩ヒラフシ
 タリ然リ而シテ茲ニ一奇詭トモ云フ可キ
 先キニ我レ等七名ノ清兵ニ捕ハレ彼
 ノ船ニ移乘スルノ際仲吉丸ニ残留セ

在神戶海山録

日本領事館

船負二名、對し當時守備兵トシテ来ル
 二名、清兵ノ中一名最モ未熟ナル日本
 語ヲ以テ曰、ラク予先年日清戦役ノ際
 捕虜トナリテ日本守備ニ送ラレシヤリ
 其際受ケタル日本ノ好遇ハ今ニ至ルモ忘
 ル能ハス其恩ヲ報スルハ此ノ時ニ在リ今此
 回ノ事変ニ付再び兵役ニ身ヲ投セリ
 必スヤ一身ヲ犠牲ニ供ヒテモ君等ノ
 生命ヲ全フスルノ責スヲ負担ス直モ
 進フル勿レト懇々懇諭シリル一事ナリ
 扱テ同時ニ朝日丸乗組員ニ直ケニ本船
 ニ降り残留セシ果韓人ニ其後ノ模
 様ヲ問ヒシニ唯々清兵襲来ノ際清
 兵ノ爲ノ本船ヲ擧航ヲ強行サレ其際
 帆及び船体ノ一部ニ毀損ヲ受ケタルト
 全時ニ所載ノ財物ヲ掠奪セラレタル
 後ハ別ニ異状ヲアリシ由ヲ答ヘタリ然
 ル内既ニ出帆ノ準備ヲ整ヘ二船共板
 箱取込ニ就キタルハ朝日丸ハ瓦ノ三
 四所進航セシ頃ハ浅洲ニ乗り場ケ爲
 マニ具進行ヲ爲ス能ハス先進セシ仲
 吉丸ハ此異状ヲ目撃スルヤ直ケニ投
 錨シ谷口多吉仁田十郎ノ兩名乗来レ
 船負三名ノ救助ノ爲ノ朝日丸ニ赴ク
 マタリ然レバ千潮ノフトテ又如何トモ
 ナス手術無之唯此ノ上ハ滿潮ノ期ヲ待

直隸通志

日本領事館

ヲノ外ニ遂ナキヨリ且終潮時ノ至ルヲ待
 チ居ル内清國用船其場ニ漕キ来リ我
 等ニ対シ同船ニ乗来スルヲ告ゲレニ因
 リ船員其名具用船ニ赴キタルニ清兵七
 名許リ在リ我々朝日丸ノ停滯ヲ責問
 シウ、共ニ急進ヲ促スニ在リ然レ氏船員
 三名ハ之レニ答フルニ何分夜航ノ上不安
 ノトテ清洲ニ乗揚ケ居ル爲ノ蒲潮迄
 出帆スル能ハザルノ旨ヲ陳述セシニ清兵
 等ハ又責問セヌ翌早朝自船ヲ以テ先導
 船ニ當ラシムラ約ニ依テ午前二時頃
 蒲潮ニ後ヒ浮出スルヲ得全時ニ右清國
 船ノ船尾ニ後ヒ出帆セシニ凡ソ二三町許
 進行セシ頃ハ先導船ハ同所ノ清洲ニ
 乗リ揚ゲ楫ヲ換ヒ再ビ其任ニ堪フル
 一船ハ其見ニ於テ清兵七名ノ内士官俸
 ノ者離別ヲ告グルニ際シ予ハ斯ノ如キ
 者ナリトテ付屬書ニテ通リノ名
 刺ヲ授與シテ潛キ去リたり斯ノ朝
 日丸ハ西翼ニ進航ニ就キタルニヨリ仲吉
 丸船員モ本船ニ取乗ヒ共ニ校編出帆
 シ相前後シテ帰航ニ就キシニ河分風
 雨、爲ノ進行竟、如クナラズ廿五日午
 前八時漸ク大和島ニ寄着シ當時在泊
 ノ本邦軍艦磐城群ヲ訪ヒ向艦長殿
 ニ面謁シテ前陳ノ事實ヲ簡述シ傍

清洲川

日本領事館



清兵等ノ爲メゴニハツテ掠奪シタレ
 バ再後ノ航路危險ナルニヨリ該品ノ
 貸下ヲ懇願セシニ同艦長殿ハ直ニ
 其請ヒテ答諾アリテ即時ニ有合ノ
 一箇ヲ貸下トナリ且ツ食物等ニ欠
 乏セバ補具スベキ等種々懇到ナル注
 意ヲ被ルニ至シリ然レモ食物ニ未
 事ニ附キ具旨ヲ答申シタリ同時ニ艦
 長殿ハ前述ノ事由御承知セラレ具
 附近ニ派遣アル測量船ノ危険ヲ
 察セラレ直ニ帰艦ヲ命セラハルニ至
 シリ
 我レ等ハ艦長殿ヨリ鎮南浦駐在日
 本領事館行ノ書翰ノ取次ヲ托マ
 レ今日午前十一時ニ船共ニ同所ヲ出
 帆廿八日午前七時鎮南浦ニ着船ニ具
 船ノ前陳ノ始末ヲ上申ソレ置キ尤モ
 本船ハ二隻共ニ已述ノ如ク最キニ清
 兵ガ北下洞ニ於テ強制轉航ヲ試ミタ
 ハ馬ノ船時及帆等ニ毀損ヲ受ケ爲
 ノニ具修航海ヲナスル駐ハス全地ニ
 繫留ノ上具修繕ニ着手セシノ船長信
 口多吉衆客仁田十郎ノ兩名ハ本件ニ
 関シ別紙取調書ノ通、被奪品取戻
 及ヒ損害額要求ニ付テ手續ナシ
 爲メ同日出浦ノ汽船伊柴諾丸ニ受

在韓國仁川港

日本領事館

采同廿九日寺港、帰着致シタル儀
有之候条此段顛主書ヲ以テ上申江
候也

明治三十三年七月廿一日

御時丸船長 谷口多吉

伴吉丸船長 山根俊松

同 柳后関太郎

同 太田保松

朝日丸船長 空彦中四郎

同 沼田澤平四郎

同 村元兼吉

同 藤田勝次

采客 仁田十郎

在韓國仁川港

日本領事館

金
十
分
七
厘
二
毫
六
絲
五
忽
五
微

損害承調書 (被奪品并損害見積書)

一 金貳千百貳拾貳圓七拾五錢也

外ニ仁川海關噸稅領収証及仁川監理署ノ韓國内

地航海認可書

内訳

被奪品同個数 被奪品價格及損害見積書各所載船名 計

韓 貨 貳百拾圓 金百八拾圓六拾錢 谷口多吉 仲吉九 日貨貳百四十二圓 韓貨百四拾四圓

日本銀貨 金卅百五十四圓 金

同紙幣 金叁拾圓 金

八角時計 金叁拾五錢 金

航海用コンパス 金七圓 金

磁 石 壹圓 金壹拾肆圓 金

メリーケンタバ 壹個 金拾四圓 金

在韓國仁川錄

日本領事館

小道貝種々 金拾五圓 金

猪通帯 壹筋 金九圓 金

岸 衣 卅枚 金六十四圓 金

煙草入 壹個 金四圓 金

帽子靴 二個 金拾肆圓 金

洋 午 表 才 金壹拾肆圓 金

ミンボクン等雜品 床 金拾肆圓 金

禱時計 壹個 金拾肆圓 金

蓬蔭移鏡 壹個 金拾六圓 金

獵 鏡 壹個 金拾七圓 金

洋 吸 斗 烟 金拾五圓 金

本日自廿一日至廿一日平均一日計 日本領事館

韓 貨 叁百四圓 金叁百四圓 金 朝日丸 日貨貳百四十二圓 韓貨百四拾四圓

航海用ヨニハシ	走 個	重六四斗格	才 三
船時計	走 個	重四四	才 三
護身刀	走 個	重三三	才 三
白米	走 石	重拾斗	才 三
船道具	取 名	重拾八	才 三
修繕費		重拾三	才 三
<small>朝日丸及仲 美三計六斗</small>			
小計	重千斗百八拾五	四八拾	才 中
<small>外ニ仁川海軍醫院領収証并ニ 仁川遊覽署ノ韓國内地航海認可書共</small>			
被奪品目	個 數	被奪品目價拾六 博害金銀	被奪品目 所部船名 小 計
衣類	取 名	重拾四	山根俊松 仲吉丸
小計	重拾四	斗	
衣類	取 名	重拾五	斗 森石関次 仲吉丸
小計	重拾五	斗	
<small>在韓國仁川港 日本領事館</small>			
衣類	取 名	重拾五	斗 太田保松 仲吉丸
小計	重拾五	斗	
鞆	傳 拾五	斗 全拾五	斗 九拾 才 空宿中野 朝日丸 <small>日付之七斗二斗 鞆傳拾五斗格</small>
日銀貨		全四拾	斗 三
小計	重五拾	斗 九拾	才 也
衣類	取 名	重拾四	斗 潘清次郎 三
小計	重拾四	斗	
衣類	取 名	重五	斗 村之兼次 三
小計	重五	斗	
衣類	取 名	重五	斗 藤田勝次 三
小計	重五	斗	
以上			



襖	袴	襪	六菱短靴	襪時計	靴	襪	縮緬スリ帯	袴類取巻	レヤツ	小皮帯	ゴボシ下	小諸道真服	洋	ナリメン帯	小巻帯	唇目鏡	巾指揃	銀簪舞人廻	ハチ	ナンウ	サカミヤ	笠
個	個	一	一	一	二	一	一	九	四	一	四		一	一	一	五	六	三	八	八	四	八
枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚
日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館	日本領事館
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

又	物	十八匹	全	九九拾五寸身	全
キマノ	帯	六	全	全四四寸身	全
積荷	運賃		全	全九四六寸身	全
通算	送料	<small>本月十七日 世田谷 日没迄</small>	全	全四四寸身	
通算	運賃		全	全八四	
運賃	運賃		全	全八四	
日	寄	<small>本月十七日 世田谷 日没迄</small>	全	全拾五寸	
小計			全	全七百拾四寸也	
右之備ニ御座候也					
谷口多吉					
山根後松					
榎石蘭太郎					
日本領事館					
太田保松					
空常四郎					
沼田沢四郎					
村元兼吉					
藤田勝次					
仁田十郎					



乙 號

張

樹

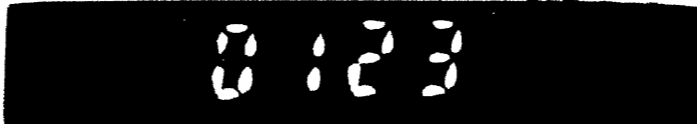
本

(稟 書)

尉 村 行 一

在 韓 國 仁 川 錄

日 本 領 事 館



急 為

明治五年八月八日接受
65
シカ

明治五年八月八日
日發遣
主任

主任

送第 一三三九 號

練久醒下知事

羽野

長崎南支那支店長 附籍書寫 附信

外務省

越下知事 本町三丁目

倉田武平

明治五年八月八日 附籍書寫 附信
越下知事 本町三丁目
倉田武平
長崎南支那支店長 附籍書寫 附信
羽野
送第 一三三九 號
明治五年八月八日 日發遣
主任
シカ

急

急

文書課長



明治廿五年十一月八日接受

66

明治廿五年十一月八日
同日
廿七
日
起
發
遣

主任

用印

送第 一三四〇 號

檳榔嶼 知事 用印

牙直轄事及之若陸籍事由期在件

外務省

岡山 島田 郡 竹田 村 本 年 移

百廿八 年 中田 新 松

百名 明治廿三年 轉 國 由 地 行 初 年 一 百 廿 八

の 一 百 廿 七 年 法 國 奉 天 府 駐 在 途 一 百 廿 七 年 一 月

也 一 年 一 月 一 日 籍 上 一 百 廿 八 年 一 月 一 日 籍

籍 一 年 一 月 一 日 籍 上 一 百 廿 八 年 一 月 一 日 籍

の 一 百 廿 七 年 一 月 一 日 籍 上 一 百 廿 八 年 一 月 一 日 籍

一 年 一 月 一 日

5-1 3 2 6

0125

朝鮮通信書 第十一卷 一四四號

地方甲 第一七四一號

一五九七〇

岡山縣見島郡時松村古字時松

石九十八番地

中田真松

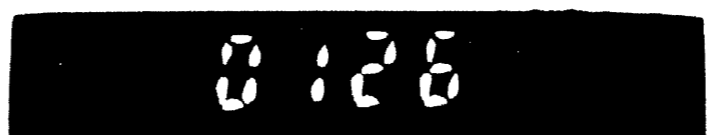
有之者韓國內地行商中活兵ノ為ノ殺害セラレ
ル件ニテ矣シ本年三月廿日送第一六四〇号ノ旨
照會シ越了録石細長守令入ツ去ル三十三年七月頃
活兵ノ為ノ殺害セラレテ越了録石セルモ亦テ確
ル証ニシテ
及同左ノ如シ
明治三十二年十月五日

岡山縣知事 檜垣直在



外務省通商局長 松村 清殿

進ラレテ照會書中 中田真松トテ在ル者ハ戶籍上中
田真松ナル越了録石ノ存存也



明治十五年十二月十三日

一六五八〇號

一六三〇八

本年十二月十日付送券一六三〇八号
より交際糧子殿 幸長村大守
泉倉田武平 戸籍上ノ義三郎
此の會々趣了る事取調 於此
併に界之り未夕何事ノ通否に
接セ不問人義ハ戸籍上尚生存
ノ爲メ之を之れ事成り云云本又
之を詮殺害せしむん者之れに
籍之り讀可致に旨 候書長より申
此の事何分ノ義由回報 致す事此
あり向の事也
明治十五年十二月十日

熊本縣

熊本縣知事 佐々木 恒範

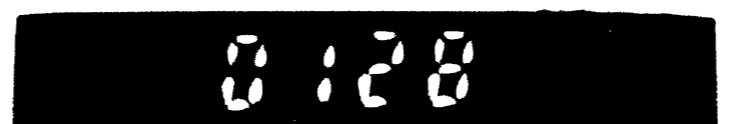
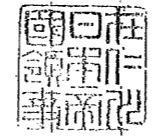
外務省通商局長 杉村 潜殿



公印二三〇号
 清国兵に殺害せられたる人の名目
 中日戦争に連日損害賠償金下
 添付出の件

去る明治三十二年八月、中清港立河倉田
 武平、中田新松、三名、清国平安道慈
 城郡の商中清兵ノ為ノ捕縛ノ上、奉
 天府ニ於テ殺害せられたる事、當時
 及以報告せられたる事、及以有告示
 外十二号ノ趣旨ニ基キ、同所下海
 備金下海才形、同所下海、同所下海、
 金、同所下海、同所下海、同所下海、
 在韓國仁川港 日本領事館
 等上ハ正當ノ領事証ヲ取リ、同所下海、
 明治三十五年十二月十三日

領事 木原春四郎
 外務大臣男爵小村嘉太郎殿



損害賠償之儀付御願

能率縣天草郡本戸村大字九泉三百拾番地
當時韓國信港在國屋留地為番年居留

平民

故倉田武平

右私夫儀明治三年八月韓國平安道慈城郡
行商中清國兵、為之捕縛せし奉天府、於之
殺害せし候、外當時損害賠償之儀請
願仕置候外今般外務省告示第拾二號ノ
趣ニ基キ出願仕候間當仁川領事館於之
賠償金御下渡之被成下度此段奉願候也

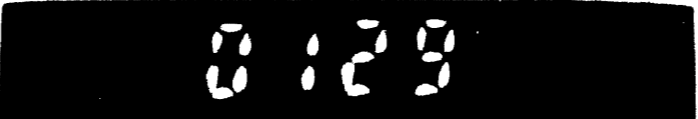
右故倉田武平妻

倉田カト



外務大臣男爵小村壽太郎殿

大坂鈔本製



損害賠償之儀ニ付御願

岡山縣児島郡呼松村大字呼松見指番地

當時韓國行港朝鮮町京畿道リ長留

平民

故 中田新松

右 夫儀明治廿年自韓國平安道慈城郡行

商中清國兵之為之捕縛セリ奉天府ニ於テ殺害セ

リ候分當時損害賠償ノ儀請願仕置候外

今般外務省告示第拾三號ノ趣ニ基キ出願

仕候間當仁川領事館ニ於テ賠償金御

下渡ニ被成下度此般奉願候也

右 故 中田新松書

坪井毛卜

外務大臣男爵小村清太郎殿

六枚鈔本數



醫書

代

明治廿五年十二月二十五日

明治廿五年十二月廿四日

明治廿五年十二月廿四日

明治廿五年十二月廿四日

主任

明治廿五年十二月廿四日

明治廿五年十二月廿四日

外務省

明治廿五年十二月廿四日

乙卯三六号

亡中田真招損害金下添：同元件

二七七〇

客歲十二月十日付乙卯三三〇号ヲ以テ當港
 立而然存办平氏倉田武平、岡山办平氏
 中田真招、西名、去ル明治三十三年八月
 當國平安道益城郡行高申津兵、為
 ノ、捕縛ノ上遂、殺害セラル義、付遺
 族共ヨリ損害金と交付ノ方、既出：對レ既
 書お添申付過之の事、八月廿五日付乙卯
 一五五号ヲ以テ右、於管地方長官ノ
 報告：依レ、両名共未ク死亡除籍ノ手
 續未済：レテ孰レモ尚生存、姿、左成
 在韓國仁川港 日本領事館
 右、付右除籍ノ手續ヲ完了レ正當ノ
 お遺人ヨリ受領方既出、按テ既斗肯
 以事示シ認取テ了子、倉田武平、為
 二、當ノ手續ヲ以テ入籍後、右、付右
 遺子文平、當然、右、去ルレキ義、レ
 存、お、茲、特殊ノ所、註議、行、度
 義、左、具、陳、述、出、間、何、を、中、懸、津、兵
 ヲ、遺、レ、ラ、レ、ン、コ、ト、切、望、ノ、至、不、忘、也
 亡中田武平、教、年、未、當、港、在、西、名
 去、ル、事、去、ル、三、十、年、十、月、當、地、在、於、山、口
 社、大、島、郡、沖、浦、村、三、百、二、十、番、屋、為、平、氏
 押、井、モ、ト、ナル、去、ル、事、之、連、タ、ル、モ、未、ク、乙、卯
 上ノ手續ヲ既、ニ、サ、ル、内、向、三、十、三、年、五、月

此中田真招の遺族に
 損害金を交付するに
 関係する書類
 乙卯三三〇号
 乙卯三六号
 乙卯三七七〇号

商業ノ為ニ倉田武平ト共ニ米田平安
 道彦城邸ニ在リ其時其家法兵ノ為ニ捕縛
 ノ災難ニ遭過シ遂ニ殺害セラルル我
 其當時辱ニテ報告及ニ其時其父が
 右ニ其内縁ノ妻モトニ其時其旅行中
 日三十二年八月米田港ニ在リ其子出生
 親一ト名ツケル中其時其家ノ入籍おノリ
 モアリ且ツ其時其時其時其時其時其時
 知ノ手控ヲナス丁モ叶ハス免ニ用事モト
 私生子トシテ届出ル我ニ有之ル得共在
 親一ニ其時其時其時其時其時其時其時
 去等ノ証明スル所ニ有之ル然ル現存
 其時其時其時其時其時其時其時其時
 在韓國仁川港 日本領事館
 戸主ニシテ父母并ニ其時其時其時其時
 直其時其時其時其時其時其時其時其時
 恵ハ其時其時其時其時其時其時其時
 招殺害ニ對スル損害金ニ其時其時其時
 下流ナル事トモ成ル我ニ其時其時其時
 モトニ内縁ノ妻トハイヒナガラ既ニ数年
 間亡直其時其時其時其時其時其時其時
 其時其時其時其時其時其時其時其時
 ガル内直其時其時其時其時其時其時其時
 ル冷中ニテ其時其時其時其時其時其時
 中田家ノ其時其時其時其時其時其時
 終ニ私生子ナル事分ラ免レズ其時其時
 其時其時又モトニ日三十二年結婚ノ初ヨリ



日三十三年真招旅中 達子外せ居
 其招殺害せられタルヨリ引續け日に至
 近千五年一苦ヲ排レ困難ニ困難ヲ至
 成ル時トト女奉乙ラレ又洗濯ノ賦業
 ヲ當ニ乳兒ヲ養育云月レ母子僅才糊口
 ヲ凌レ始有極ニテ實以テ不憫冷中
 之由間後存戸籍上親子ノ關係ニ生じ居
 るガレモ親一カ亡直招ノ直系卑ノ親タル
 事實ニお違十中冷中ニ有之れ得志何年
 特ニ中註簿ヲ以テ該損害金達子
 親一：中下後お成れ採治治養及到底
 其申註簿：乃ニ存ニ係：有之れハ損
 害金申交付ノ際お陰志、馬ト申説治
 在韓國仁川港 日本領事館
 上損害金ノ全部又ハ大部分ヲ右真
 招遺子親一養育月料トシテ分配
 事ト以テ計成ル様治治養及到底
 書并戸籍簿存 お陰此後再慮及
 上申お教具
 明治三十二年二月廿一
 在仁川
 領事 石原本四郎

外務大臣男爵小村吉之助殿
 逕ヨリお申付直八月廿四日付并お陰志、馬ト申説治
 治此レ：依リテモ存書が事之旨上お申付
 レ丁ニお陰治治養及到底、有之れ



損害要償金下渡御取計願

私儀内婚、夫岡山縣児島郡呼香村大字

○
呼香

呼香四百二十四番地平民中田新^真松(慶應元年

十月一日生)が去ル明治三十三年八月某日鴨緑江

上流ニ於テ清兵ノ為メニ捕ハレ遂ニ殺害セシ

美義ニ付キ翌年四月 日付損害要償、

御照會ヲ当御館、出願致置矣、更今回

該照會事件終結之趣当御館ヨリ御達

ニ相成謹而拜儀仕美就夫右中田真松ト

私ト、夫妻実係ハ未ダ公式上手続ノ履踐ナキ

迄ニテ其事實ハ已ニ明治三十年十月当地、於テ

祭生爾来今人が死地、赴向、為メ出祭、際則

ハ予明治三十三年五月十三日、至ル教々年間引

續キ今居罷杜矣、殊、明治卅三年八月十五日出



生せし私と生子男觀一、右中田真松ノ
出祭前七箇月光、懐胎致美義ニシテ則
ハ子同人ノ兒ニ與相違モ何分同人ガ吏ノ
出祭后不圖不歸ノ客トナリシガ爲メ彼等父
子ノ關係ハ法律上遂ニ之ヲ識認スルヲ
許サザルニ至リ從而可憫私生子タルノ身分
ハ觀一ガ全体ニ綿纏シテ生涯脫離スルト
無之ト雖民事事實彼等ノ父子實際ハ私
ガ右中田ニ対スル夫妻ノ關係ト共ニ既ニ世
人ノ識認セシ所ニ有之候
前陳之次第、右之矣奈事實御取調ノ
上中田真松被害事件ニ係ル損害要償
金何卒其実子タル右觀一、対シ御下渡相
成美様御取調被成ニ度保証人連署ヲ



以テ以段奉願候也

明治三十六年三月十七日

山口縣大島郡津浦村三百二十番屋敷平民

韓國仁川港居留地外花園洞居留

觀一母 坪井毛卜

己中田真松卜右坪井毛卜、夫妻實係

二同中田卜右毛卜、私生子觀一卜、父子實係

孰レモ前文ノ通り事実、右之矣ニ付茲ニ保

證仕候

廣島縣安藝郡倉橋島 耆屋敷

平民韓國仁川港居留地七号地居留

浅木森七太郎

領事加藤本四郎殿



本曆本小戸籍、原本と相違ナキ事ヲ詔証ス
明治三十二年二月二日 岡縣兒島郡呼松村 籍吏三宅 功

5-1 3 2 6

0139



葉書寫

表面 韓正仁川港公園地通る花可印所

坪井 彦と橋

日本正統公使島津時松村吉之

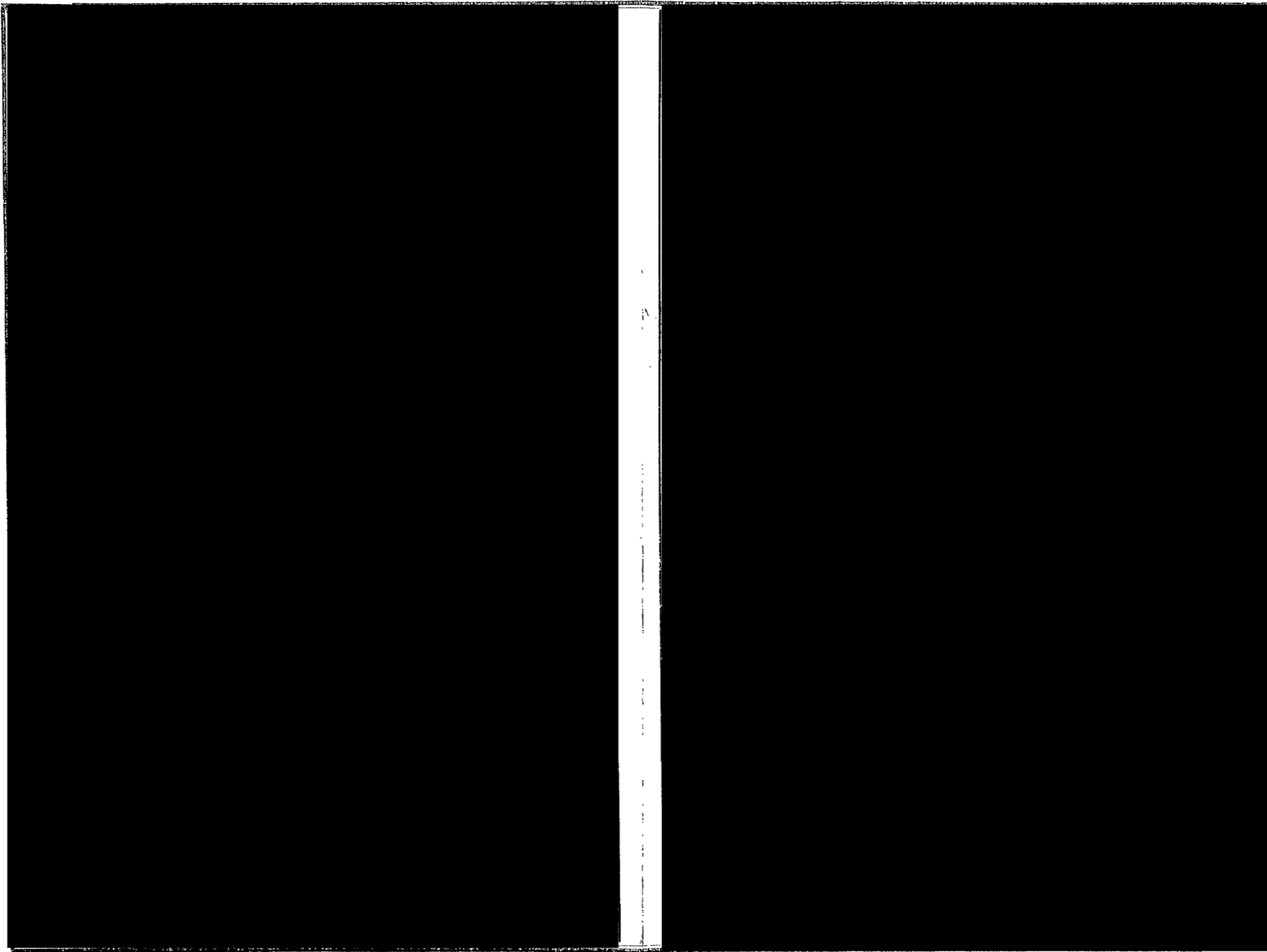
字松字上之町 中田忠八

裏面

お湯先月十日付ノ書面 韓正仁川港公園地通る花可印所
此書タレノ書面 韓正仁川港公園地通る花可印所
宅一日付ノ書面 韓正仁川港公園地通る花可印所
松尾多子世孫多子世孫ノ書面 韓正仁川港公園地通る花可印所
毛筆并武具合又極上ノ了二付ノ書面 韓正仁川港公園地通る花可印所
韓正仁川港公園地通る花可印所 韓正仁川港公園地通る花可印所
在韓國仁川港 日本領事館

先在本村山根松尾多子世孫ノ書面 韓正仁川港公園地通る花可印所
及先ノ書面 韓正仁川港公園地通る花可印所
韓正仁川港公園地通る花可印所 韓正仁川港公園地通る花可印所





5-1 3 2 6

0142

右瞻本小書の緒、附籍の傳、相違ナシナリ 証	明治三十六年五月二十日	岡山縣兒島郡呼松村	三宅 功

5-1 3 2 6

0144

明治卅六年六月十五日受 審 通商局

第九一〇号

七九三七

損害賠償金下流方件

在 韓 國 仁 川 日 本 領 事 館

日軍、庚申、及上申之、鴨綠江上流、
松子津、匪、慘殺せらるゝ倉田武平
遺族ヨリ損害賠償金下流、及び武平
遺族、等、向、不、然、等、事、件、に、
對、し、本、館、に、係、り、申、出、す、事、由、具、
明治三十二年六月五日

吉川

領事 加藤本四郎



外務大臣男爵小村壽太郎殿



損害賠償之儀付仰願

熊本縣天草郡本戸村大字九泉寺古塔六番地
當時韓國行港各國居留地塔寺番地
居留地主名田文平母

倉田カト

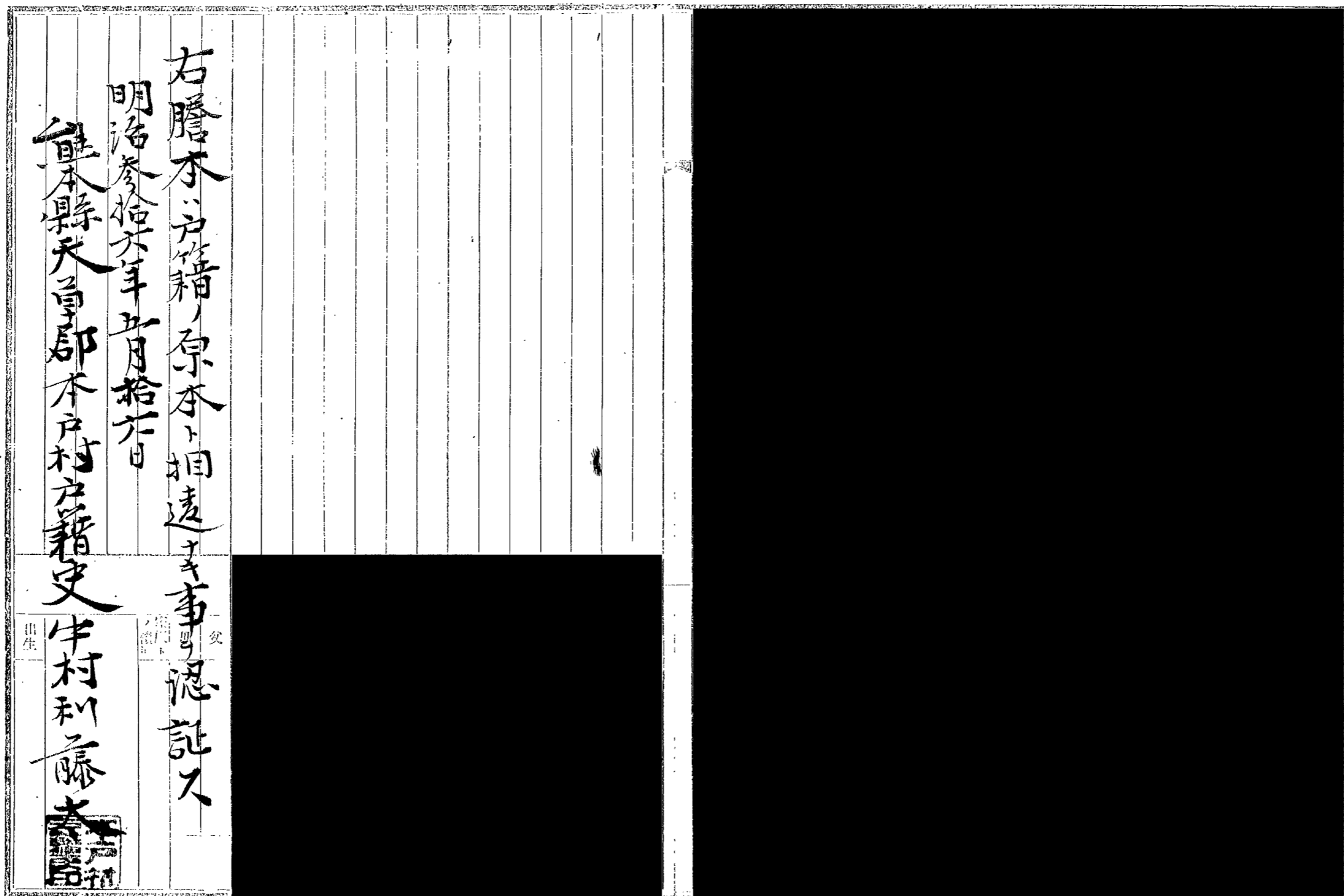
右^私七夫倉田武平儀明治考格考年韓國平安道
行高中清國兵ノ殺害セリ候ニ年今般^許文平
岸督相續仕候間賠償金之儀八仁川領事館
於^下渡被成下度別紙戶籍謄本相添此
段奉願候也

右地主倉田文平知年存親權ヲ行フ也

明治考格六年六月四日

倉田カト

外務大臣男爵小村壽太郎殿



右膳本二方籍ノ原本ト相違キ事ヲ認証ス

明治癸卯拾六年五月拾六日

能登縣天島郡本戸村庄籍史
牛村利藤

出生

45

明治三十一年六月廿九日
同月廿九日發遣

田代善吉 關了

主任 繁

調査委員

女信川洋行 大匠

同人調査員 藤原...

外務省

政府田東に此種事業を個人所有全下付する所
 之等自世傳る可き事一以て歸々日本に
 一必同人遺子に於ては其の利益を難く其
 其事情の概を記する所同人相繼いで田東
 ハリ其項方見たり相考、其類遺子養育者
 科トシテ分配する所備上流論延修の所
 管岡山知事ハ分給する所備一水田等
 なる所及調査なり



明治三十年三月三日
同 年 月 日
起草 日發遣

主任 築

羽

曾

切替

外務省

大臣

閣下
閣下

外務省

閣下
閣下

閣下
閣下

閣下
閣下

閣下
閣下

閣下
閣下

閣下
閣下

47



明治二十二年七月三日起草
同 年 七 月 三 日 發 遣

主任 築

羽田重吉

調査委員 曾行保

榎垣山知事

町田建富

八五七

個人調査委託書

外務省

此書は個人調査員によるものであり、調査員の名は調査書に記すべし。調査結果は調査書に記すべし。調査書は調査員の手で調査地の長官に提出し、調査書の写本を調査員に返す。調査書の写本は調査員の手で調査地の長官に提出し、調査書の写本を調査員に返す。

加藤通事より朝鮮通事館より送付の
事情の概モ示る書上は、論議上同人遺子奉
育料と相違金類分給社が、同社斗五半
り可一尚又別紙裏紙用紙及簿紙等名
稱付せん書上は、同社斗五半

尾田通事館宛書上
行方片字送付

外務省



明治二十六年七月十六日 警備通商局 出

會計課

第九二二三號

第九二二三號

個人損害金受領之関之件

故倉田武平北清事変何人損害金
交付方：関ノ案月三十日付送一第ハ二号
ヲ以テ右損害金四千ハ於三日四時ハ
以送付成成心ニ致スルハ正當ナル
人ニ交付トシテ受領成心ニシテ葉美
進、以查為成成心ニ於テ申進、取
具

明治二十六年七月十一日

吉江川

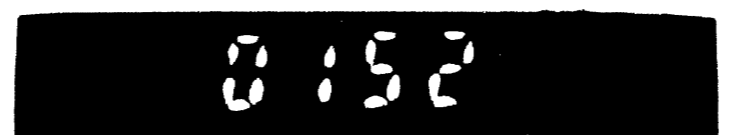
領事加藤存仁郎

在韓國仁川港

日本領事館



外務省通商部小村清太郎殿



此書係、
正徳十一年修訂、
d

地方甲第一三二六號

九九九

本年七月一日付送奉、八五七号、
縣吳多歌呼村中、田惠八、北清、事、
按、
田、
召、
名、
二、
交、
三、
少、
及、
也

以江三十八年七月十日

岡山縣知事 檢地直吉

外務部 総務長官 珍田 権三 殿

地方甲第一三二六號

一〇三八

北清事變個人損害金本縣兎島郡呼松村大字
 呼松中田惠八、交付方兼右交付金中より被害者
 中田真松遺子親一、分配方、併本年七月十日送
 弟八五七號、所通牒、趣了兼右、関シテ、去ル七
 月廿二日地方甲第一三二六號、ヨリ不取敢及通
 牒置候如、遺子親一、ハ、分配額決定セザル為、
 交付方遷延相成居候處、漸ク協議ヲ遂ケ分配
 額申出タルモ、僅カニ御交付額ノ三分ヲ分配セント
 申立タルヲ以テ、懇篤説示シ漸ク其半額ヲ分配
 セシムルコトニ兼諾為致所送付金交付方取計別
 紙受領證兼印鑑証明書ヲ徴シ及回付候条
 御了知相成度尤モ遺子親一、ハ、分配金ニ便宜

明治三十六年八月十九日

岡山縣知事檜垣直右



外務總務長官珍田捨己殿